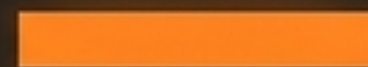


評価の パラドックス

毎日やる人が、
損をする世界。



政治家、親、コーチ…「当たり前」を支える人々の功績はなぜ軽視されるのか？

状況：政治家が被災現場へ行く。
世間の評価：「仕事だから当然だ」



状況：普段素行の悪い人がハンカチを拾う。
世間の評価：「本当はいい人だ!」と大絶賛。

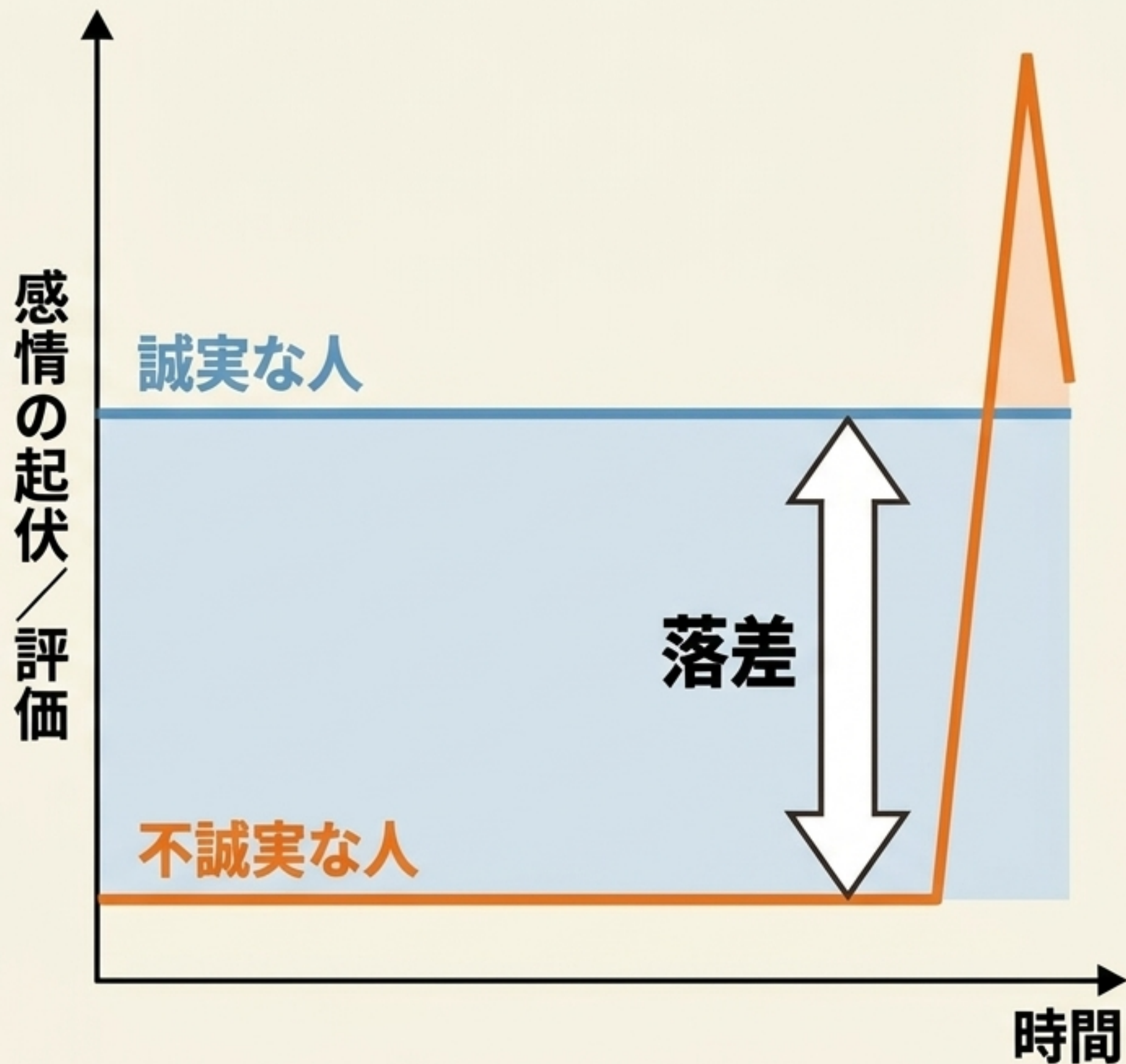


この評価、おかしくないか？

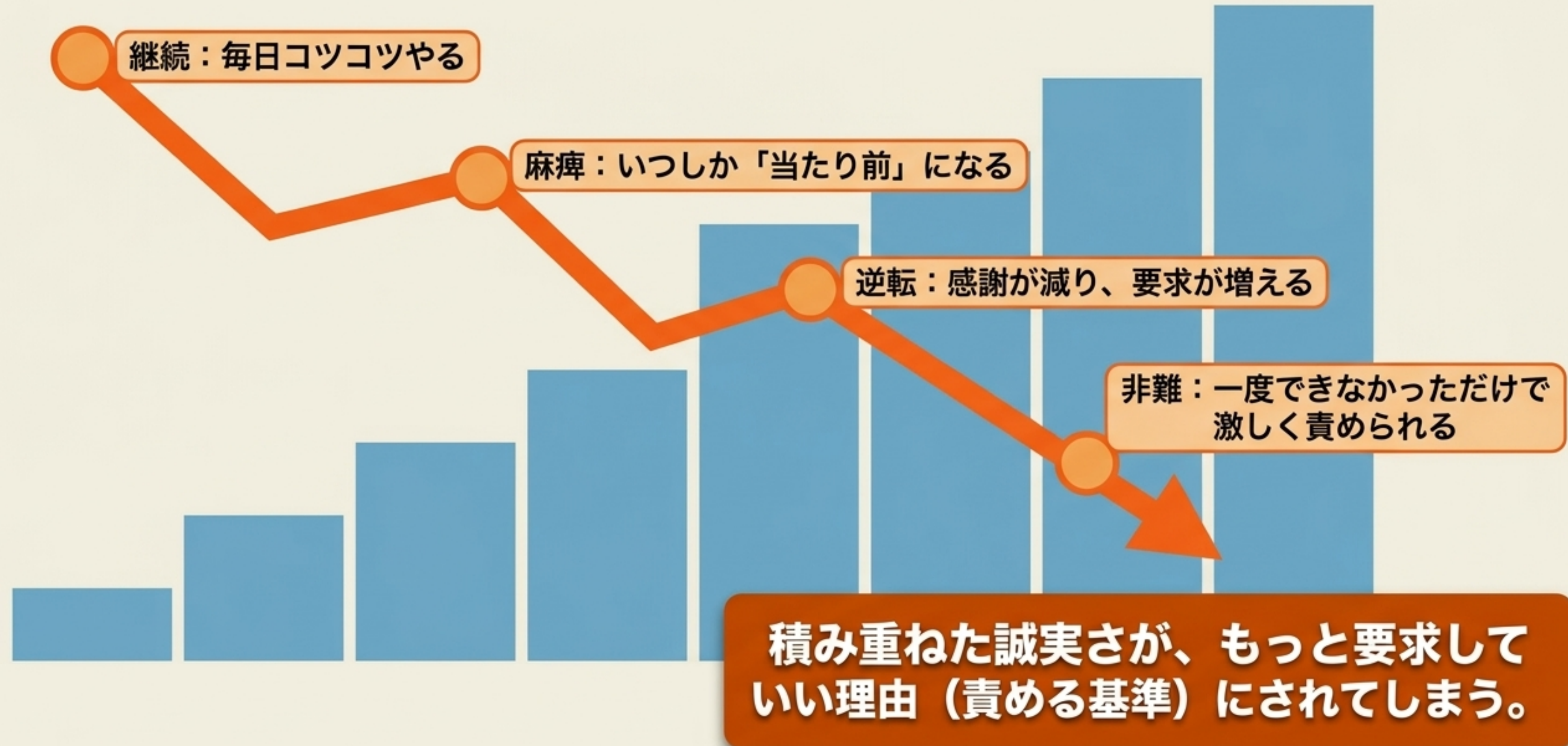
私たちは「何」に感動しているのか？

貢献の大きさではなく、
「期待との落差」に
感動している。

期待値が常に高い「誠実な人」は、
実績が高くても感情の起伏を生まない。



「当たり前」が生み出す負のスパイラル



「誠実さ」が抱える理不尽なリスク

今回の行動

普段の行動

		今回の行動	
		良いこと	悪いこと・失敗
普段の行動	誠実	【誠実 × 良いこと】 = 「やって当然」 (感謝なし)	【誠実 × 悪いこと】  = 「激しい非難」 (裏切り扱い)
	不誠実	【不誠実 × 良いこと】 = 「大絶賛」 (感動)	【不誠実 × 悪いこと】 = 「予想通り」 (ノーダメージ)

支え続ける人が、最も報われない構造。

誰が「苦勞」を引き受けているのか？

「平穩な日常」

「苦勞のない生活」

誰かが苦勞を引き受けているから、私たちは苦勞を意識せずに済んでいる。
こちらに苦勞が見えないからといって、何の努力もないわけではない。

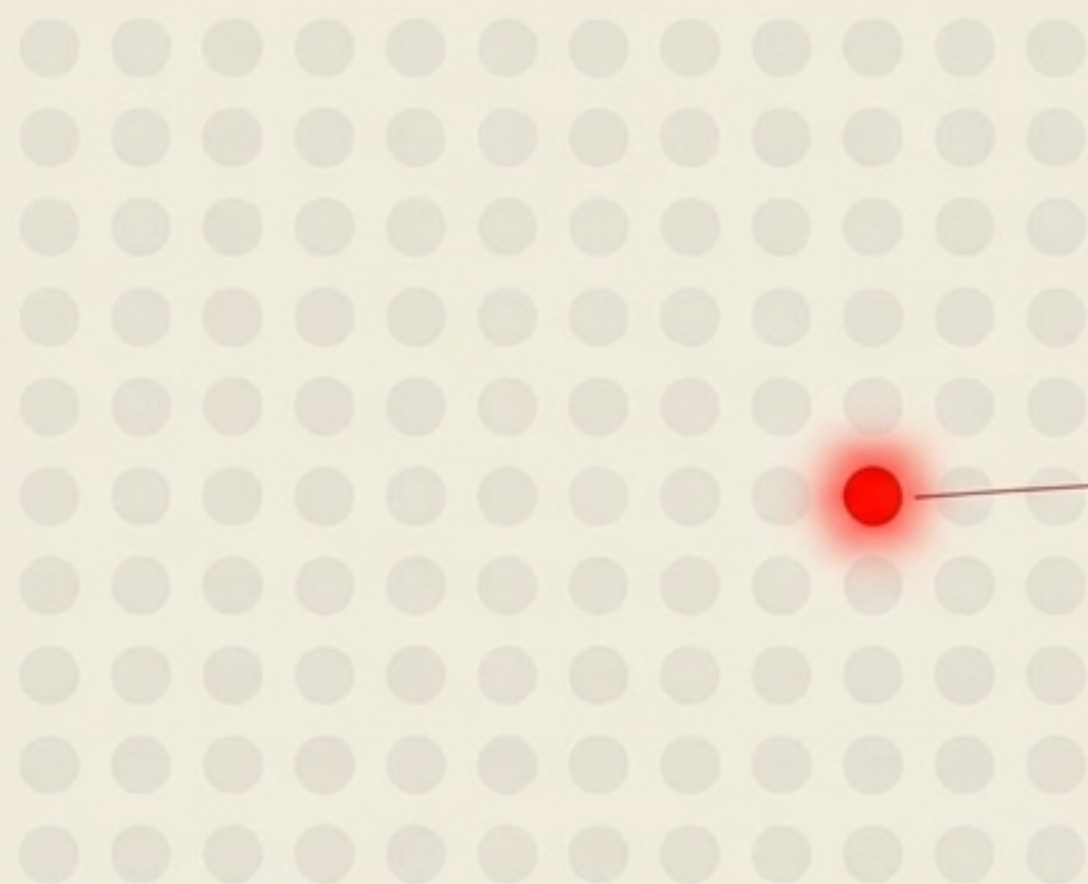
親が整えてくれる
日々の生活

政治家が日常を維持
するために担う仕事

コーチが考え抜いて
用意する練習

政治家が日常を維持
するために担う仕事

消えた100回の善行



百回支えてくれたことより、
一回支えられなかったことに目が向く。

その百回は、どこへ消えたのか？

**消えたのではない。
受け取る側が、数えなくなったのだ。**

思考の転換：驚きと貢献の分離



「たまの善行（驚き）」

- ・ 驚きの大きさと、貢献の大きさを混同してはいけない。
- ・ 「やって当然」は、感謝しなくていい理由にはならない。

- ・ 「やって当然」は、感謝しなくていい理由にはならない。

「毎日の誠実さ（貢献）」

日常を見る 「解像度」を上げる



たまの善行に拍手を送る感受性。
それと同じくらい、
毎日の誠実さを見つける眼を
大切にしたい。

派手な驚きがなくても、昨日も今日も責任を果たしている。
その重みを、慣れで薄めてはいけない。

支えてくれる人に届けたい、究極の言葉。

「あなたが続けてくれていることを、
私は知っている」

感謝の再定義

感謝は、何か特別なことを
してもらった日にだけ伝えるものではない。

特別なことが起きずに
済んだ「今日」にこそ、
伝えるべきものである。